

平成 20 年度第 3 回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会 議事要旨（案）

日 時： 平成 21 年 3 月 27 日（金） 16:00～17:30

場 所： 国立情報学研究所 12 階 1208 会議室

出席者： 逸村委員（筑波大学），土屋委員（千葉大学），森委員（京都大学），大場委員（一橋大学），柴尾委員（明治大学），鈴木委員（物理系学術誌刊行センター），永井委員（日本動物学会），林委員（日本化学会）

根岸委員長，安達委員，早瀬委員（以上，国立情報学研究所）

事務局： 尾城学術コンテンツ課長，奥村学術コンテンツ課副課長（以上，国立情報学研究所）

陪 席： 細川学術コンテンツ課専門員，杉田学術コンテンツ課係長（以上，国立情報学研究所）

議 事：

1. 今後の進め方について （資料2, 3）
2. その他

配布資料：

1. 平成 20 年度第 3 回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会出席者名簿
2. 平成 20 年度第 2 回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会議事要旨
3. 日本の学術誌－電子ジャーナル時代の学術出版を考える（目次）

議事：

1. 前回議事要旨確認

平成 20 年度第 2 回運営委員会議事要旨について確認があった。

2. 今後の進め方について

審議に先立ち、NII の 21 年度の事務体制について説明があり、これについて考慮のうえで審議いただきたいとの依頼があった。

以下の質疑応答、意見があった。

[平成 21 年度の事業について]

- ・平成 21 年度に実施しなければならないのは、SPARC 事業 6 年間の評価、次期計画の策定、セミナーの実施の 3 点である。
 - 運営委員会を残して次期計画を策定し、セミナーは実行委員会が企画し、NII は場所や旅費等の手配をするという役割分担でよいのではないか。

(事業の評価について)

- 事業の評価については、パートナー誌合同会議の資料「SPARC Japan 活動のまとめ」をベースに各パートナー誌からの評価を加えればよいのではないか。
- 数学に関しては SPARC Japan の果たした役割が非常に大きかった。数学は雑誌を交換する文化でやってきたので、SPARC がなければ、電子化してビジネスモデルを確立することはできなかった。また、紀伊國屋の冊子販売中止に伴う対応策を検討する際にも、力になってもらった。
- UniBio Press についても SPARC Japan 事業の成功例といえる。サイトライセンスの還元金を参加学会に返せるようになったこと、今まで繋がりのなかった同じ分野の学会とコミュニケーションがとれるようになったことなどが、大きな成果である。
- これら数学分野や UniBio Press からの評価を、報告書に盛り込むとよいだろう。

(次期計画の策定について)

- 図書館は IR を運営するにあたり、オープンアクセスのエンバーゴ問題など学会について知る必要が出ているので、IR と SPARC を融合することには意義がある。
- 学会側も IR により図書館が情報発信の機能を持ち始めたことで、学会がそれをサポートするという win-win の関係をつくるのが可能ではないか。SPARC Japan の第 3 期事業の候補になると思われる。

(セミナーの実施について)

- ▶ セミナーの企画については、ワーキンググループとセミナー実行委員会を統合し、そこで行ってはどうか。

以上の意見交換を踏まえ、当面は NII で事務局機能を担うこと、セミナーに関しては、平成 20 年度のセミナー実行委員が中心となって、関係者と適宜調整しつつ、企画を進めることが合意された。

[その他]

- ・ 永井委員より、資料 3 に基づき「日本の学術誌—電子ジャーナル時代の学術出版を考える」について執筆中であるとの報告があった。

根岸委員長より委員に対し、今後の進め方については、平成 21 年度に協議を続けるので、引き続きご協力いただきたい旨の依頼があり、承認された。

以 上